

<b>1 学校教育目標</b>
「自ら学ぶ意欲」「ありがとうの心」「たくましく生きる力」を育てる

<b>2 学校経営ビジョン</b>
(学校像) ・「基本」を育てる学校 ・「生きる喜び」を実感できる学校 ・「ありがとう」のあふれる学校 ・「風通し」のいい学校 (児童像) ・自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・明るくたくましい子ども (教師像) ・人としての「人間力」 ・奉仕者としての「使命感」 ・専門職としての「指導力」

<b>3 本年度の重点目標</b>	<b>4 前年度の成果と課題</b>
○国語や算数の基礎的・基本的事項の習得はもちろん、活用力の向上をめざす。特に国語の関心・意欲を高めるために指導方法の工夫改善を行う。 ○学校生活習慣の確立のために「鹿島っ子しぐさ」を作成し、生活態度のモデル化を行う。 ○風通しのいい学校づくりに努めるとともに、家庭や地域の協力を得ながら朝食・あいさつなど基本的な生活習慣の定着を図る。	・T Tの効果的な活用により、国及び県の学習状況調査やC R Tにおいても良好な結果を収めた。 ・関心・意欲を高めるために、身近な問題や興味を起す問題提示などの授業の工夫が課題となっている。 ・学習習慣は全校での共通理解が図られてきた。生活習慣、生活指導では保護者との連携を更に強化していく。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知並びに情報公開	・P T A総会、学校便り、ホームページを通して周知を図り、保護者の認知度を80%以上にする。	・学校だより、P T A総会、学級懇談会等で具体的取組を説明する。 ・ホームページで情報公開する。
	○教職員の資質向上	教職員の意識改革及び職員研修、授業研究の充実	・研究授業を全員実施し、授業力を向上させる。	・国語の授業研究会では講師を招聘し授業論、指導方法、指導技術等指導力を向上させる。
	○特色ある学校づくり	国語科や算数科における指導方法の工夫改善と学力向上	・児童の実態に即した指導方法の工夫改善と少人数T T指導を有効に活用し学力向上に努める。	・児童の実態に応じた指導方法の工夫改善を行う。 ・基礎基本の定着と「思考力・表現力」を向上させる。
	○危機管理体制の整備	交通事故・生活事故防止と危険回避能力の育成	・交通事故や生活事故、また不審者等の未然防止に努める。	・交通教室の開催、不審者等への対応等、生活指導を強化する。 ・防犯ボランティアとの連携を強化する
	○家庭との連携	保護者との信頼関係強化	・家庭との連携は「迅速・丁寧・誠実」を心掛ける。	・学級便り等定期的に発信する。 ・積極的な連絡体制を行う。 ・電話等での丁寧な対応を行う。
教育活動	○開かれた学校づくり	教育活動等学校の情報を家庭や地域に積極的に提供	・授業参観参加者率70%、学級懇談会参加者率50%以上にする。 ・フリー参観デーで、地域住民参加者50名以上をめざす。	・フリー参観デーは、幼稚園、保育所、老人クラブ等へ呼びかける。 ・地域ボランティアの活用を推進する。
	●学力向上	基礎的・基本的学力の定着と思考力・表現力の向上	・国や県の学習状況調査では全国水準を上回る。 ・国語力、算数力を向上させ全学年のC R Tを全国標準100以上を達成する。	・T Tを核として楽しく分かる指導を工夫する。 ・学期末には、全校一斉の漢字計算フェスタを行い、基礎的事項の徹底した定着を行う。 ・長期休業中に補充指導を行う。

	●心の教育	「鹿島っ子しぐさ」による自律的生活態度 道徳時間の授業公開	・生活態度のモデル化を行う。 ・参観日には「心」「命」に関する道徳の授業を行う。	・自律した生活態度を徹底させる。 ・授業参観日等には保護者参加型の道徳の授業を年1回実施する。
	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立と運動、食、病気の予防と治療	養護教諭、栄養教諭と連携し、健康教育、食育を進める。 運動の楽しさを実感させる。	・毎日の健康観察、時季に応じた健康管理の指導。 ・食育の推進 ・自分にあった体力づくりを勧める。
	○家庭学習習慣の育成	学習習慣の定着による学力の向上	・家庭学習時間80%以上の達成をめざす。 低：30分程度、 中：45分程度、 高：1時間以上	・「学びのてびき（授業編・家庭学習編・生活編）」を作成配布し、学年に応じた家庭学習時間等の進め方等家庭への協力を依頼する。
	○読書指導	やさしい心を育てるための家庭読書等読書習慣の形成	・年間読書冊数を80冊以上にする。 ・「学年おススメの本」の読書率80%以上にする。	・朝の読書タイムを充実させる。 ・PTA母親部と連携した読み聞かせを実施する。
	○人権・同和教育の推進	自他の良さを認め合い尊重しあう心の醸成	・人権・同和教育8視点を取り入れた授業の推進。	・人権・同和教育の8つの視点を取り入れた授業実践。 ・異学年集団の活動（ひまわりタイム、ボランティア活動等）の実践。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の充実	基本的な学習習慣や生活習慣の確立 TTの工夫、きめ細かな指導。	・「元気なあいさつ」「掃除」「人の話を聞く」「学習準備」の完全習得者を90%以上にする。	・基本的な学習習慣、生活習慣の徹底的な定着のため家庭と連携を図る。 ・生活、学習習慣の発達段階に応じた指導を工夫する。
	○幼・保・小・中連携	・校区内幼稚園、保育園との連携強化 ・西部中学校との連携強化	・幼保小連携を年間2回以上、小中連携を年間5回以上開催する。	・幼保訪問、授業の相互公開などにより、小1プロブレム、中1ギャップ解消に取り組む。